安倍首相　辞意　(電子版号外)

安倍首相 辞意

第2次内閣発足7年半 体調悪化

安倍晋三首相（65）は辞任する意向を固めた。政権幹部が28日、明らかにした。自身の体調が悪化し、首相の職務を継続するのは困難と判断した。2012年12月の第2次内閣発足から約7年半。意欲を示した憲法改正や北朝鮮拉致問題の解決に道筋を付けられないままの退陣となる。「安倍1強」と評されたが、新型コロナウイルス対策は迷走し、内閣支持率は下落傾向に入っていた。自民党は速やかに総裁選を実施し、新総裁を選出する。

首相官邸に入る安倍首相＝28日午前

首相は今月17日、東京・信濃町の慶応大病院で約7時間半にわたって「日帰り検診」を受け、24日に再び受診した。第1次内閣時の07年には持病の潰瘍性大腸炎が悪化して退陣。その後は薬の効果もあって12年12月の第2次内閣発足以降、激務をこなしていたが、日帰り検診をきっかけに、政府、与党内で体調不良説がささやかれていた。

「ポスト安倍」候補には、自民党の岸田文雄政調会長や石破茂元幹事長らが意欲を示している。コロナ禍の中、政治空白をつくるべきではないとして安倍政権を支え続けてきた菅義偉官房長官を推す声もある。

第2次内閣発足以降、首相は最優先課題として経済政策「アベノミクス」を推進。自然災害をはじめとした危機管理を看板に政権を安定化させてきた。しかしコロナ対応では「スピード不足」「不十分」と非難された。

詳細は本紙で

この号外は信毎HPから印刷できます

https://www.shinmai.co.jp